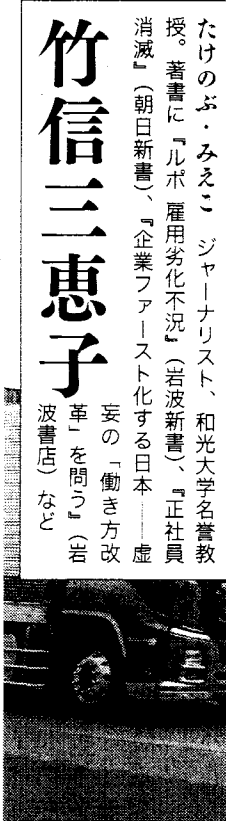


ルポ 労組破壊

「関西生コン事件」とは何か(中)

労働分野で 進められる

解釈改憲



竹信三恵子

著の「働き方改革」を問う(岩波書店) など

たけのぶ・みえこ ジャーナリスト、和光大学名誉教授。著書に『ルポ 雇用劣化不況』(岩波新書)、『正社員消滅』(朝日新書)、『企業ファースト化する日本——虚

ゼネスト事件の舞台のひとつとなった宇部三菱大阪港サービスステーション(2020年1月、筆者撮影)

世界 SEKAI 2020.3

「関西生コン事件」は、全日本建設運輸連帯労働組合(略称・連帯ユニオン)の関西地区生コン支部(関生支部)労働員らが、団体交渉やストライキを行ったことなどで二〇一八年七月から現在に至るまで、大量に逮捕され続けている事件だ。団結権(労組を作る権利)、団体交渉権(労使交渉する権利)、団体行動権(ストライキを行う権利)は、「労働三権」として憲法二八条で保障されている。にもかかわらず、なぜ逮捕は可能になったのか。そこには、働き手の権利をめぐる用語が刑事罰の用語に言い換えられ、「犯罪」に読み替えられていく、「労働分野の解釈改憲」ともいえる動きが見えてくる。

二府二県の警察が一斉始動

二〇一九年一〇月、小雨の中、私は大阪府内の弁護士事務所に向かっていた。「関西生コン事件」の弁護を担当する永嶋靖久弁護士の事務所だ。

大阪・京都・滋賀・和歌山の二府二県にわたる府県警が申し合わせたように動き出し、逮捕された労組員が釈放されると別の府県の警察がまた逮捕して長期にわたり拘束する。そんな「連携プレー」の下、延べ八九人(うち労組員は八一人)が逮捕され、延べ七二人(同六七人)が、ベルトコンベアに乗せられたかのように起訴されていく。そんな事件に、私は戸惑っていた。

これほど広域で、被疑者も大量となると、かかわる弁護士

| 担当捜査機関 | 事件名 | 逮捕時期 | 逮捕人数(延べ) | 逮捕理由 |
|------------------------------------|---------------------------|---------------------|--------------|-------------|
| 〈コンプライアンス活動〉 ①滋賀県警 (組織犯罪対策課) | フジタ事件(1次~5次) | 2018年7月18日~19年2月18日 | 労組員20人、事業者6人 | 恐喝未遂 |
| | セキスイハイム近畿事件 | 2018年11月27日 | 労組員8人 | 威力業務妨害 |
| | タイヨー生コン事件 | 2019年4月11日 | 労組員2人 | 恐喝 |
| | 日本建設事件 | 2019年6月18日 | 労組員4人 | 威力業務妨害 |
| | 東横イン電建事件 | 2019年7月17日 | 労組員4人 | 威力業務妨害 |
| | 日本建設・東横イン電建事件 | 2019年8月20日 | 労組員1人 | 威力業務妨害 |
| 〈ストライキ〉 ②大阪府警 (警備部) | 宇部三菱大阪港SS事件と中央大阪生コン事件(3件) | 2018年9月18日~11月21日 | 労組員28人 | 威力業務妨害 |
| 〈団体交渉〉 ③京都府警 (組織犯罪対策課) | 加茂生コン事件 | 2019年6月19日 | 労組員5人、事業者2人 | 強要未遂・恐喝未遂 |
| | 近畿生コン事件 | 2019年7月17日 | 労組員2人 | 恐喝 |
| | ベストライナー事件 | 2019年9月4日 | 労組員2人 | 恐喝 |
| 〈抗議活動〉 ④和歌山県警 (海南署) | 和歌山広域協組事件(2件) | 2019年7月22日、11月14日 | 労組員5人 | 強要未遂・威力業務妨害 |
| 計 | 18件 | | 労組員81人、事業者8人 | |

の教も、身運活動のため出かけていく地域の広さも、半端ではない。一体、何が起きているのかを、現場に立ち会ってきた担当弁護士の目から、読み解いてもらいたかった。

事件は、表のように四つに大別できる。①滋賀県警による労組の「コンプライアンス活動」をめぐる逮捕、②大阪府警による二〇一七年一二月一二日のゼネストをめぐる逮捕、③京都府警による労働条件の改善などを求めた団体交渉

などをめぐる逮捕、④和歌山県警による労組の抗議活動をめぐる逮捕だ。

流れを整理するため、これらの事件名をホワイトボードに次々と書き出しながら、永嶋弁護士は言った。「戦後の大きな労働事件というと、一九六〇年ごろの三井三池争議や、一九八〇年代の国労事件があります。今回の事件の影響度はそれに匹敵する」

理由は、規模の大きさはもちろん、ストや団体交渉といった労働基本権が保障する労働者の活動を、「暴力集団による刑事事件」へ読み替えていく、その手法にあるという。

「読み替え」はどのように進められていったのか。

「大変なことが起きますよ」

「関西生コン事件」の大量逮捕は、表の①滋賀県警による二〇一八年七月一八日の生コン会社経営側の逮捕から始まる。労働事件は普通、労組員の逮捕から始まる。それが経営側から始まったのは、関生支部の独特の賃上げ戦略と関係がある。

「関生支部」は、中小零細生コン会社で働く運転手たちを組織する企業横断型の産業別労組だ。多くは小さな輸送会社の社員で、賃金は製品の輸送を委託する生コン会社からの運賃に左右される。こうした生コン会社は生コンを買うゼネコンなどに競争させられ、価格を買いたたかれていることが多い。こうした構造をそのままにして輸送会社に賃上げを求め